

JAXA つくば宇宙センター 感想

1 年女子 「初めて参加した理数研究校の企画」

私は夏休みに開催される予定の企画に友達と参加希望を出したことがあります。しかし、その企画は人気のため抽選となってしまう、私たちは抽選に外れてしまったので、参加できませんでした。

そんな中、今回のつくば JAXA 訪問バスツアーの企画を聞いた時に、ぜひ今度こそ参加したいと思い友達と参加希望を出しました。

今回のツアーで 1 番印象に残っているのは、宇宙飛行士養成エリアでの見学です。このエリアは個人では見学することの出来ない団体バスツアー限定のものです。実際に宇宙飛行士になるための訓練が行われた「閉鎖環境適応訓練施設」を見て、何も無いところで 1 週間も見知らぬ人と生活するのは、すごいと思いました。そのときにガイドさんが「963 名の応募者の中から厳しい試験に合格した 10 名がこの施設に滞在して、そのなかから 3 名を選ぶ」とおっしゃっているのを聞いて、やはり宇宙飛行士はとても狭き門なんだと改めて実感しました。

また、私は漫画の宇宙兄弟が好きです。宇宙兄弟のパネルなどがあったり、漫画の舞台となる場所に訪れることが出来たのも、このツアーのおかげだと思いました。

ガイドさんが、宇宙飛行士に必要なのもつくば JAXA で働くにも、1 番大切なのは「協調性」とおっしゃっていました。なので、私も今後の生活で周囲の人との協調性を大切にして生活したいと考えています。また理数研究校の企画に参加したいです。

1 年女子 「理数研究校 ありがとう」

まずは、学校と東京都に感謝したいと思います。本来なら全て無償で行くことのできないところに行かせて頂き有難いと思っています。

私は宇宙が好きです。私たちの生活などの可能性の幅を広げるものがたくさんあるところだと思うからです。今回の見学で本物の宇宙船や宇宙服、筑波宇宙センターの設備を見てより一層宇宙について詳しく知りたくなりました。宇宙飛行士が着る宇宙服については 120 キログラムというあまりに重たすぎる重さに驚きました。宇宙に持っていきだけで大変だなと思いました。しかし、温度調節のためのダイヤルを見るための鏡がつけられていたり工夫が施されているのだなと思いました。その温度調節のための水は宇宙にいる間ずっと同じなのかなという疑問があったのですが、聞けば良かったと少し後悔しています。

お土産売り場では宇宙食が売っていましたがなかなか高い値段でした。水分を抜いてカラカラになったものが多かったです。お米の宇宙食については戦時中の糰にそっくりというか同じではないかなと思いました。宇宙食のところでラーメンを探したのですが、なかったので残念です。宇宙食のラーメンは、日本人が作ったものなので実際に見てみたいという思いがありました。ガチャガチャにチャレンジしてみたのですが宇宙服のフィギュアが出ませんでした。H-II B ロケットでした。それも十分良いものなのですがやはり宇宙服の方が横幅があるので飾るにはそちらの方が良かったです。宇宙服のフィギュアも機会があれば買いたいです。H-II B ロケットは家にある地球儀の近くに置いておくとなんか良いなと思いました。

また、何か面白そうな企画があれば是非参加させて頂きたく存じます。今回、引率してくださった先生方、本当にありがとうございました。

3年女子 「宇宙開発による社会貢献」

私が JAXA 宇宙開発センターに行きたいと思ったきっかけは、宇宙の謎についての最新の研究を見たいからだ。しかし、JAXA では宇宙の謎をただ解明するだけでなく、宇宙環境を社会へ生かす研究が行われていた。

私が特に興味を持ったのは、宇宙の無重力という環境を生かして、より純粋で高品質なタンパク質を生成するという研究だ。生命の仕組みを解き明かすカギとなるタンパク質だが、その結晶生成はとても困難だ。結晶生成を困難としている 1 つの原因が重力だそうだ。そこで、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」では全国の研究機関から宇宙実験を行いたいタンパク質を募集し選定したうえで、結晶生成の実験を行っている。見学ツアーでは、実際にタンパク質結晶のモデルやタンパク質生成用キャニスターなどを見ることができ、専用の機器や装置についてより知りたいと思った。

私は今回の見学ツアーで、JAXA の宇宙開発は日本の未来につながるものだと感じた。そして、私は医療分野に進みたいと思っているので、このような宇宙での研究開発の見聞はとても興味深いものだった。そのため、今後は JAXA の研究開発により注目し、将来の社会に生かしたいと考えている。

1年女子 「星座は誰が考えたのか？」

JAXA に行ってみて、宇宙の壮大さや人々が考えて身につけた技術のすばらしさを知った。例えば、宇宙服の袖についている鏡は、胸元のメモリが自分たちで見ることができるよう工夫されているということを知って、考えついた人はすごいなと思った。また、宇宙服の頭付近や足にも隠されている工夫がたくさんあるような気がして、もっと宇宙服について知りたいという気持ちになった。

それから、宇宙飛行士になるまでの過程で、約 600 人の中から最終的に 3 人しか宇宙飛行士になることができないと知り、世の中には私が思っているよりも過酷で大変な職業がまだまだたくさんあるのだと思った。また、私がもっと宇宙飛行士になるまでの大変さを感じた部分は、約 600 人の中から選ばれた 10 人をさらに 3 人に絞るところで、共同生活を一緒にするのにそこで選ばれないかもしれないという厳しさを知った。

色々学んでいく中で、星座のでき方について疑問を持った。

受け付けがすむまでの間、壁に飾られていたそれぞれの星座の紹介を見ていたとき、逆さになっている星座もあれば、とても無理やり結びつけたのではないかと思うような星座もあり、誰がどのようにして星座を考えたのか、そもそも、星座とは何かと疑問をもち、知りたいと思った。

今回 JAXA で体験したことを自分の記憶の中だけじゃなく、JAXA に行かなかった人の記憶にも残せるようにしたい。そのために、まずは身近な人に、このバスツアーで体験したこと感じたことを伝えていきたいと思う。

1 年女子 「日本の誇れるもの」

私が今回つくば JAXA 訪問バスツアーで学んだこと、感じたことは大きくわけて 2 つあります。

1 つ目はつくば宇宙センターと私たちの暮らしについてです。JAXA で働く人達の仕事は人間社会の縮図なようなものに見えました。JAXA では宇宙にいるパイロットの空気調整や連絡を取り合うなど、様々な分野の仕事を 24 時間必ず誰かがやっていました。人間社会でも誰かが必ず働いているので電気も通れば水道も流れます。このことから、私たちの暮らしに関わっているものと似ている部分があると思いました。もし日常の暮らしに電気や水道が使えなくなると…そう考えたらそういった仕事の重要性を感じることが出来ました。

2 つ目は、技術面についてです。日本の技術はここまで進んでいるんだな…という感動をしました。日本は『このとり』(HTV)という国際宇宙ステーションに物資を届ける無人の宇宙船を開発しました。そして『このとり』は最大 6t という世界最大の補給能力があります。これはどんなことについてもいえることですが、世界の中で 1 番のものを日本が作り出したということはとても誇りに思えることです。私は専門的な技術や知識はないので、具体的にどこが他より優れていて有能なのかはわかりません。ですが、こういった専門的な知識を持っていない人でもすごいとわかるほどの実績を残していることになります。私はそれがすごいと思いました。この事実をもっといろんな人に知って感じてもらいたいです。

今回は多くの知識を身につけることができ、とても良い経験が出来て良かったです。私は多くの人に、この企画のこと、JAXA で働く人の仕事のこと、こういった面での日本と他国の関わりなどを知ってもらいたいです。